

市議会総務委員会資料

平成30年4月12日 消防本部 警防課

救助工作車説明資料



救助工作車の更新について

旧救助工作車は、平成 10 年に配置されましたが、防衛省(防衛施設周辺対策事業)の補助を受けて新しい救助工作車に更新しました。

救助工作車の特徴としては、ハイルーフキャビンを採用することで、後部席が広くなり、救助隊員は立ったままの状態でも装備や資機材を準備することができることから、すぐに救助活動が展開できるようになりました。

また、照明が LED 化され高照度省電力となりました。

- ・ 熱画像直視装置・・・煙が立ち込める環境の中で赤外線画像で要救助者を感知することができる資機材です。
- ・ 夜間用暗視装置・・・肉眼で確認不可能な暗闇でも、要救助者を見ることができます。
- ・ 化学防護服・除染シャワー等・・・NBC 災害(核・生物・化学物質)に対応するための装備です。

救助工作車の基本装置及び積載品は、以下のとおりの装備です。

- ・ クレーン装置・・・車両上部に装備し、最大 2.9 t まで吊り上げ可能です。
- ・ ウインチ装置・・・前方 5 t、後方 10 t まで牽引可能です。
- ・ 屋上上昇式照明装置・・・車両上部に装備し、伸縮及び旋回が可能です。
- ・ 梯子昇降装置・・・車体上部に三連梯子・かぎ付梯子を積載し、地上から容易に操作ができるダンパー式昇降装置です。

シャッター内は、各種救助器具が積載されております。

交通事故で変形した車両等を、押し広げたり切ったりする、大型油圧救助器具、圧縮空気を利用したマット型空気ジャッキ、各種測定器(可燃性ガス測定器、酸素濃度測定器、放射線測定器)などを装備しました。

上記のほかに、水難救助資機材、移動式空気充填機を整備しました。



新救助工作車と旧救助工作車の比較表

項目	新救助工作車	旧救助工作車	比較
免許 区分	11t (大型免許 11t以上)	10t(中型免許11t未満)	640Kg(+)
全長	8,420mm	7,620mm	800mm(+)
全幅	2,340mm	2,490mm	150mm(-)
全高	3,220mm	3,300mm	80mm(-)
ホイール ベース	4,300mm	3,800mm	500mm(+)
乗車 定員	6人	6人	0(+)
駆動 方式	4WD	4WD	変更なし



照明器具は、旧型車両ではメタルハライドを使用しておりましたが、
新型車両では、160w 2灯のLEDとなり省電力化され、5mの高さ
から360度旋回することができる仕様となっています。



クレーン装置は旧型車両では3段ブームで最大作業半径は7.69mでしたが、新型車両では、4段ブームとなり作業半径が最大8.9mとなっており広範囲で重量物を吊ることができるようになっております。最大クレーン容量は2.9tとなっております。



ウインチ装置は、全方位25度まで対応し、乱巻キック等が発生しない構造になっています。ワイヤーの長さは60mあり、フロント 常時5t、リア常時10tの能力となっています。また、ワイヤーの巻き取る速度は、無段階にコントロールできる構造となっています。



近年特殊災害が発生する中、核・生物・化学物質及びテロ等の災害が発生した際に、傷病者が汚染された衣服及び体を除染するためのテントを導入しました。



熱画像直視装置は煙が立ち込める環境の中、赤外線画像で要救助者を検索することができる資機材です。



夜間用暗視装置については肉眼では、確認不可能な暗闇でも要救助者を確認することができます。